



岐阜大学柳戸キャンパス

鶺鴒ヶ池の変遷

中藤 駿 NAKATO, Shun

岐阜大学環境サークル G-amet 鶺鴒ヶ池自然再生プロジェクト
岐阜大学大学院 自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻 修士2年



1975



2021

1965 (昭和40) 1970 (昭和45) 1975 (昭和50) 1980 (昭和55) 1985 (昭和60) 1990 (平成2) 1995 (平成7) 2000 (平成12) 2005 (平成17) 2010 (平成22) 2015 (平成27) 2020 (令和2)

1

2

3

4

5

6

7

8

9

1 バンの集団繁殖発見



現在大学のある土地は湿地帯になっておりヨシが生い茂っていた。1969年秋、日本野鳥の会岐阜支部の会員によってバン（鶺鴒）の生息が発見された。珍しい集団繁殖地でもあったこの池は、当時ブームにより増加しつつあった野鳥観察家によって『鶺鴒池（バンガ池）』と名付けられた。

2 岐阜大学の移転問題



岐阜大学は鶺鴒池を含む湿地帯（約56ha）にキャンパスを統合移転することを検討していた。野鳥の会は県環境部などに訴え始め、岐阜大学生物科学研究会は6月からバンの生態調査に乗り出した。11月には土地の買収が本決まりとなった。

3 鶺鴒池保存の難航



野鳥の会と岐阜大学生物科学研究会は今西錦司学長にそれぞれ要望書を提出した。しかし、用地買収が難航したこと、キャンパス計画がまとまらなかったことにより交渉は難航した。このような状況の中、大学側の回答は、「趣旨はわかるが、保存は敷地面積の関係で難しい。」というものだった。

4 自然保存地の誕生



キャンパス計画の検討において、各学部とも鶺鴒池の保存を前提としたプランを提出した。野鳥の生息に適した環境を整えるため、農場を接して配置し、建物は遠ざけられた。保存地確保のため学部棟は当初の5階から7階へと変更された。

5 姿を消したバン



1971年に27巣確認されていたバンの集団繁殖は1972年の集中豪雨の影響と移転工事に伴う環境変化とともに、その姿はまったく見られなくなった。加えて、外来生物の侵入や水質の悪化が問題となっていた。一方で、水生植物や多数の野鳥が飛来していた。

6 深刻化する淡水赤潮



1991年の夏、鶺鴒池において大規模な淡水赤潮が発生した。淡水赤潮は構内河川の全面を赤くするまで広がった。この頃には鶺鴒池の希少な水生植物も絶滅し、乾燥地化とセイタカアワダチソウの繁殖によってヨシ原も消滅した。

7 再注目される鶺鴒池



2000年頃まで自然保護の考え方は、人間がまったく手を加えないというものだった。このため、自然保存地は放置状態となり、学生や教員の認知度も低下し続けていた。1994年から工学部技術部を中心に鶺鴒池保全のための調査研究が開始された。

8 水質浄化の取り組み



1997年の岐大祭において、「鶺鴒池から岐阜大学の環境を考える」シンポジウムが日本科学者会議、岐阜地域自然環境委員会、学生有志の主催で開催された。シンポジウムでの報告を中心に、1998年に『鶺鴒池からみる岐阜大学の環境』が発行された。

9 講義における利用

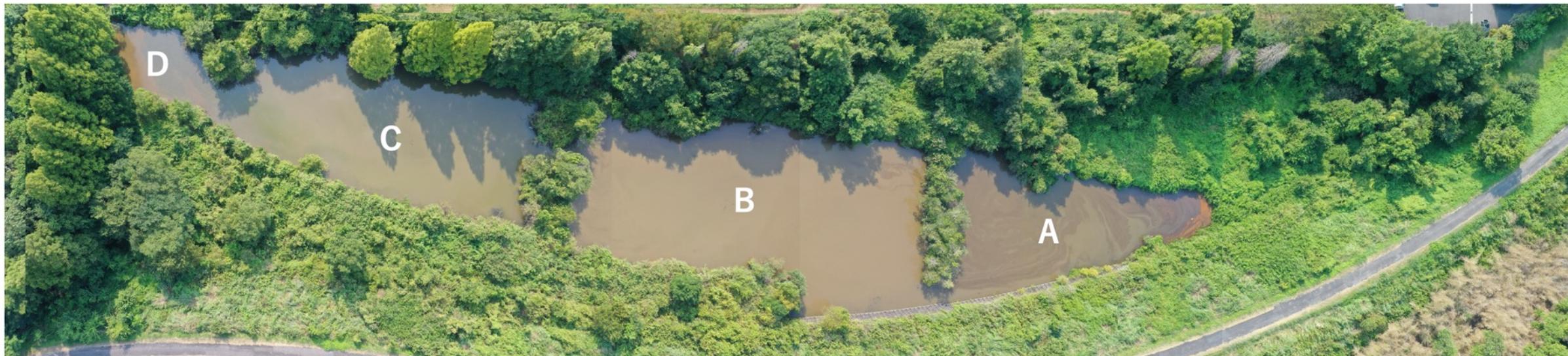


1994年からの工学部技術部による調査をもとに環境改善に向けた取り組みがスタートした。2004年に自然保存地の北西に井戸（地下30m）が設置された。同年3月から池に井戸水を供給していたが、供給路に鉄サビが多く堆積することから翌年3月にはポンプアップを停止した。

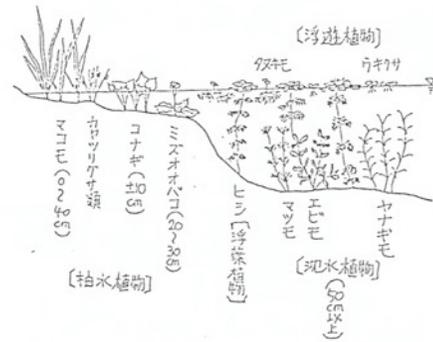
9 講義における利用



応用生物科学部 生産環境科学課程では、2013年頃までフィールド科学応用実習において「池プロジェクト」を行っていました。2019年現在でも応用生物科学部を中心に、講義において鶺鴒池が利用されています。



	マコモ	ヒシ、タヌキモ、 ホソバシズヒギモ
V	マツモ	
Y	クロモ	の3種は池 全域に分布す るが図では 省略してある。
0	ヤナギモ	
≡	エビモ	
X	コカサダモ	
ミ	ミズオホバコ	
キ	キクモ	
コ	コナギ	
ガ	ガカサダ	

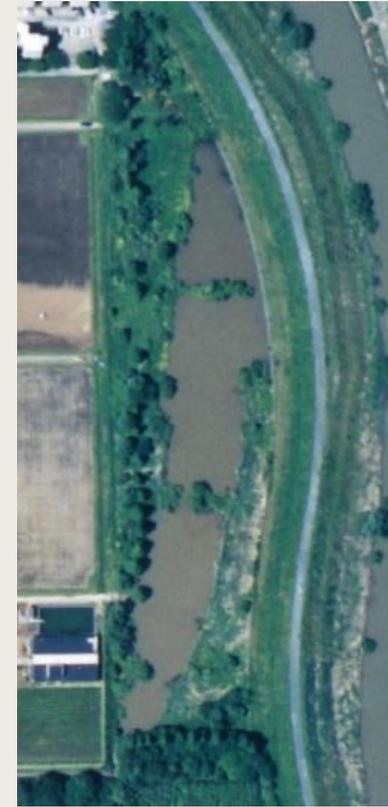


「自然保存地総合調査報告書（昭和57年度）岐阜大学生物科学研究会」より

バン最後の繁殖確認 (1979)
伊自良川堤防工事 (1979-1980)

水生植物の大幅減少 (1985)

大規模な淡水赤潮の発生 (1991)



1975

7年

1982

5年

1987

8年

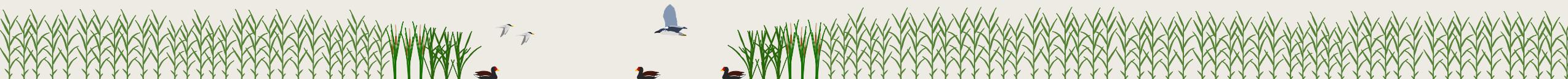
1995

9年

2004

14年

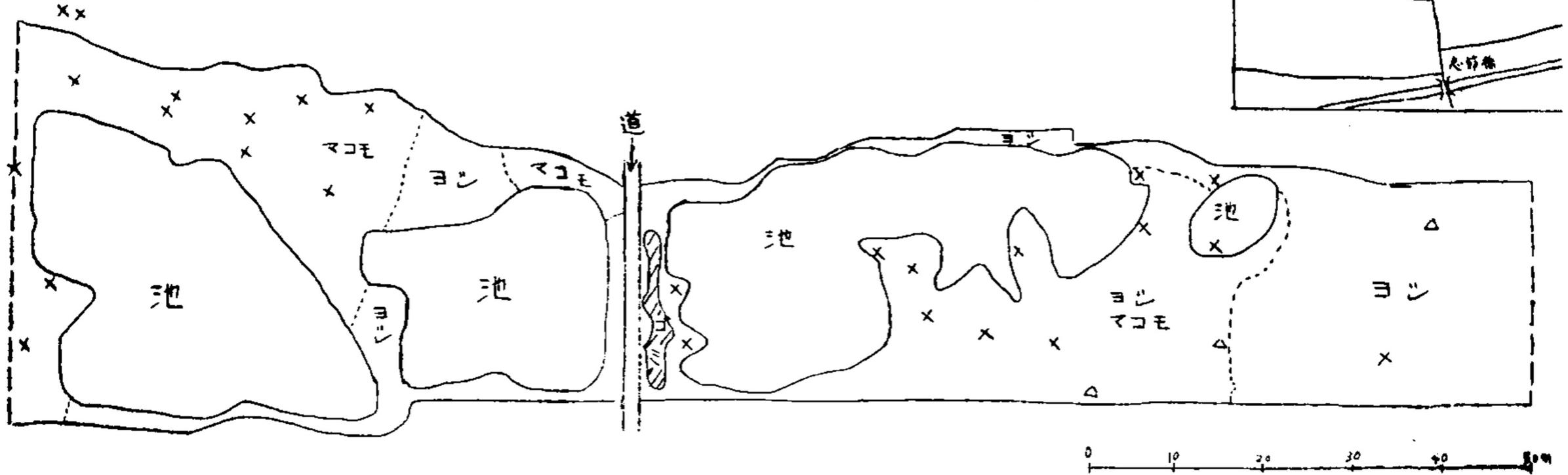
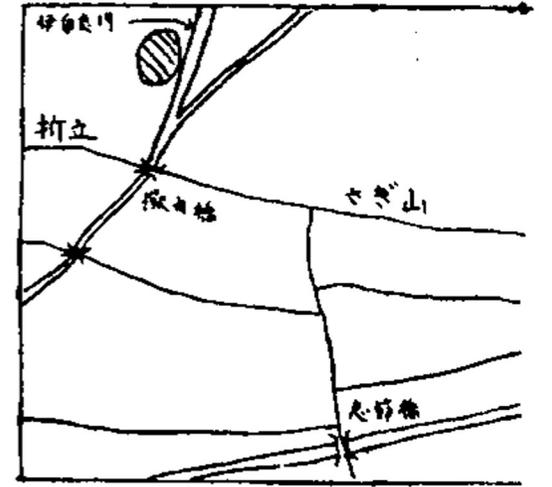
2018



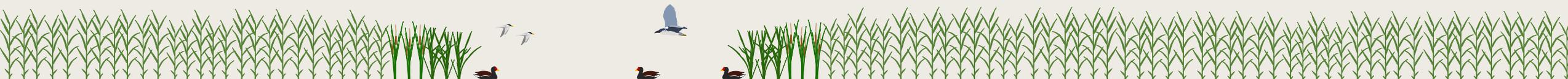


△オオヨシキリの巣の位置

×バコの巣の位置



1972年月日不明 (「総合調査報告書第6号 (神崎他編)」 岐阜大学生物科学研究会より)





1984



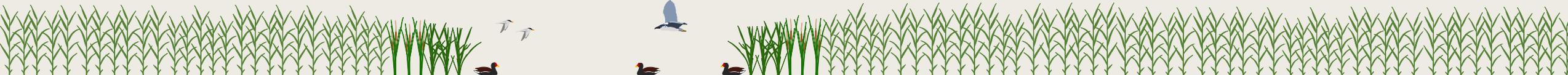
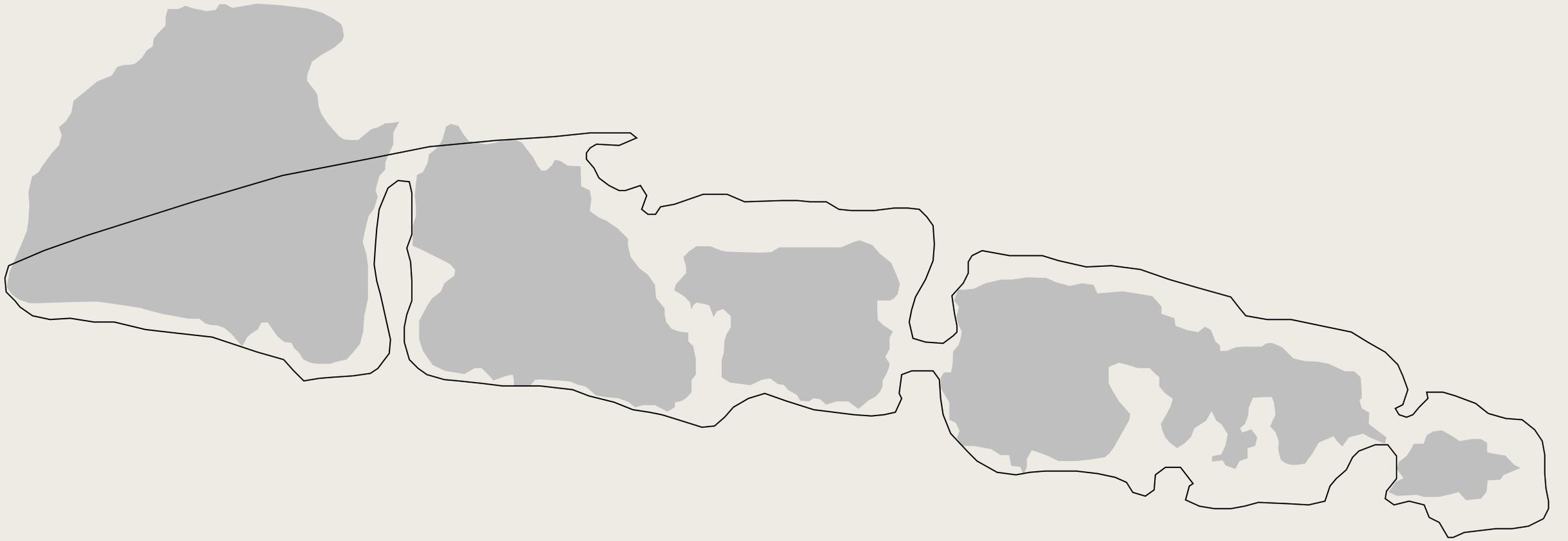
2021

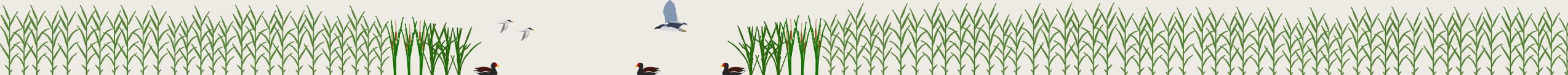
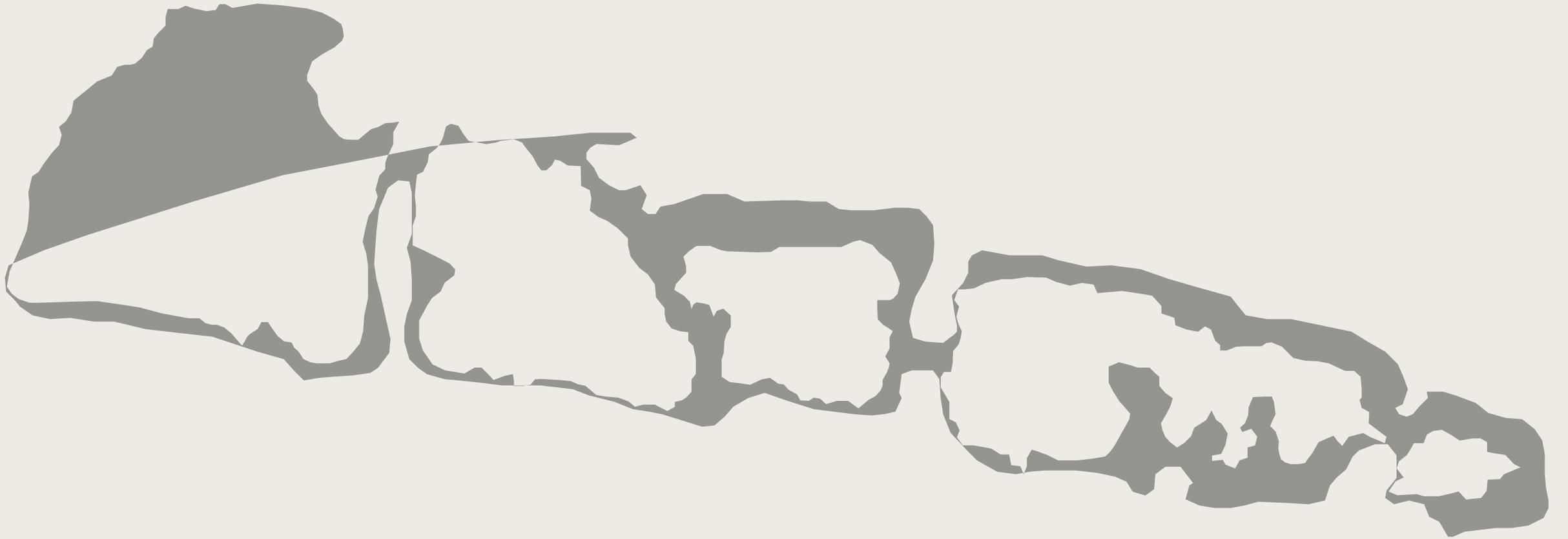


1982



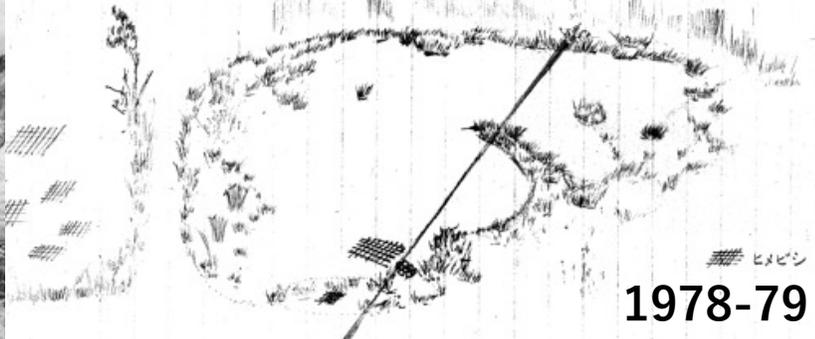
2020







1962



1978-79



1980頃



1975



1979



1981頃



1975



1980



1982



1980





考えられる鶴ヶ池の自然環境の劣化、生物多様性の低下のプロセス